

# 緑内障について



眼科医師  
永田 真裕子

山香病院だより vol.29

現在、我が国では、緑内障が糖尿病網膜症を抜き、中途失明原因の第1位になりました。失明の約25%を占めています。頻度は40歳以上の20人に1人の割合で、治療中の人はわずか2割、残り8割の人は未治療のまま症状が進行しています。さらに70歳以上では、10人に1人は緑内障です。

## ●緑内障とは

緑内障は何らかの原因で視神経が障害され視野(見える範囲)が狭くなる病気で、眼圧の上昇が原因のひとつといわれます。眼圧とは眼球の張りを保つための圧で、正常値は10〜21mmHgです。眼球の後ろのあの視神経は繊細で、眼圧に耐えられないと押しつぶされて傷つき、元に戻りません。その結果、視野がだんだん欠けていき

ます。視神経の強さには個人差があり、眼圧は正常範囲なのに緑内障を発症する正常眼圧緑内障は、日本人の緑内障患者の約7割を占めます。眼底検査で視神経の状態を観察し、視野検査を行って診断します。

## ●症状

緑内障には隅角(眼内の水の出口で、眼圧に関わる部位)の形状によって、(1)解放隅角緑内障と(2)閉塞隅角緑内障に分類されます。(1)は少しずつ眼圧が高くなるタイプで、緑内障の8割近くを占め、10〜30年くらいかけて少しずつ進行します。知らない間に視野狭窄がほとんどありません。(2)は慢性と急性に分けられ、急性では、急激に眼圧が上昇し、目の激痛、頭痛、吐き気、嘔吐など、激しい

症状を伴います(緑内障発作)。著しい高眼圧が続くと数日で失明する事になるので、緊急の処置が必要です。緑内障発作は、一部の風邪薬、気管支拡張薬などの薬物投与により起きる場合があります。

## ●治療法

障害された視野は回復しません。ですから、治療は病気の進行にブレーキをかけるため、眼圧を低くコントロールする事が最も重要とされています。方法として、薬物療法(点眼、内服)、レーザー治療、手術があります。

## ●最後に

緑内障は早期発見、早期治療が重要です。自覚症状は頼りになりません。基本的には一生にわたる管理が必要な病気です。40歳を過ぎたら眼科を受診し、定期検査する事をおすすめします。

